

研究・調査報告書

報告書番号	担当
28	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>A prospective study of tobacco, alcohol, and the risk of esophageal and gastric cancer subtypes.</p> <p>タバコ、アルコールと病型別食道癌、胃癌リスクに関する前向き研究</p>	
執筆者	
<p>Freedman ND, Abnet CC, Leitzmann MF, Mouw T, Subar AF, Hollenbeck AR, Schatzkin A.</p>	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
<p>Am J Epidemiol. 2007 Jun 15;165(12):1424-33.</p>	
キーワード	
<p>飲酒、コホート研究、食道癌、喫煙、胃癌</p>	
要旨	
<p>目的：</p> <p>食道の扁平上皮癌 (ESCC) および胃の非噴門部腺癌が減少傾向にある一方で、食道の腺癌および胃噴門部腺癌が増加しており、異なる病因が疑われる。そこで、コホート研究においてアルコールおよびタバコとこれらの癌との関係を検討した。</p> <p>方法：</p> <p>約 47 万人の米国成人のコホート研究において、アルコールおよびタバコとこれらの癌との関係を Cox モデルにより交絡因子を調整して明らかにした。1995/1996 年から 2000 年の間に、ESCC 97 例、食道腺癌 205 例、噴門部胃癌 188 例、非噴門部胃癌 187 例が発生した。</p> <p>結果：</p> <p>非喫煙者に比べ喫煙者では、ESCC (ハザード比 (HR) 9.27、95%CI 4.04-21.29)、食道腺癌 (HR 3.70、95%CI 2.20-6.22)、噴門部胃癌 (HR 2.86、95%CI 1.73-4.70)、非噴門部胃癌 (HR 2.04、95%CI 1.32-3.16) のリスクが上昇していた。因果関係を仮定すると、喫煙による人口寄与危険は、ESCC で 77% (95%CI 55-89%)、食道腺癌で 58% (95%CI 38-72%)、噴門部胃癌で 47% (95%CI 27-63%)、非噴門部胃癌で 19% (95%CI 0-37%)であった。1日1杯までの飲酒者に比べ1日3杯以上の飲酒者ではESCCリスクが有意に上昇したが (HR 4.93、95%CI 2.69-9.03)、食道、胃噴門部、胃の非噴門部の腺癌との関連はなかった。</p>	